

たまがわりょかん 「玉川旅館」

「玉川旅館」は、大正10年(1921)に料亭として、営業を開始して以来、令和2年(2020)4月に閉館するまで、船橋市民をはじめ多くの人々が宴会や宿泊に訪れた船橋を代表する割烹旅館でした。昭和の風情が漂う純和風旅館は、埋め立てが行われる以前、この付近が海岸線であったことを窺い知ることが出来る数少ない建物でした。敷地内にあった建物のうち、昭和初期に建てられた本館・第一別館・第二別館の3棟は、国登録有形文化財となっていました。

【本館】 昭和16年(1941)建築とされ、高床式の長い脚があるため一見すると3階建てに見える2階建ての建物で、楼閣風の外観でした。

【第一別館】 昭和3年(1928)建築の平屋建て。数寄屋風建築でした。

【第二別館】 昭和8年(1933)建築の2階建てです。2階の座敷は部屋の間仕切りを取り払うと大広間となり、数多くの大宴会や結婚披露宴などが行われました。

1階部分は、外観から高床式の基礎のようにも見える造りとなっており、内部は意匠に凝った小部屋が迷路のように配されていました。1階の奥にあった「桔梗の間」は、文豪 太宰 治が宿泊したと伝えられていました。約1世紀に渡る歴史に幕を閉じ、惜しまれつつ閉館し、解体された「玉川旅館」について、末永く伝えていくために、「玉川旅館」があったこの地に説明板を設置いたしました。

令和5年(2023)2月 船橋市教育委員会



QRコードから船橋市HPへ
在りし日の玉川旅館の動画等
をご覧ください。

所管課：文化課 047-436-2898



在りし日の玉川旅館（第二別館）



在りし日の玉川旅館（本館）



太宰治が宿泊したと伝えられる「桔梗の間」